



▲コーリーロス司教は、WCC が宗教多元主義のだという主張は、誤解であると述べた。彼は反対者たちに新しいミッションステートメントを正しく読むよう要請した。彼は、そうすれば反対者の誤解が消えると確言した。
©ニュースアンドジョイ イ・ギュヒョク

WCC 宣教分科会長「宗教多元主義の疑惑は誤解」

ミッションステートメント作成責任者に聞く
「WCC 反対者は、今回の声明しっかりと読んでほしい」

ニュース・アンド・ジョイ

2013年11月08日(金) 15:58:56

<http://p.tl/LCHz>

宗教多元主義は、世界教会協議会（WCC）をめぐる古い論争の一つである。4日、WCCが30年ぶりに発表した新しいミッションステートメントについて、今回の総会を積極的に反対してきた崔ドクソン教授（ペヌエル神学校総長）は、「福音の宣言はなく、宗教多元主義と万民救済主義的主張を盛り込んだ異端的文書だ」と批判した。

この4年間をミッションステートメントの作成に傾注した Geevargjese Mor Coorilos 司教（インド）は、WCC が宗教多元主義を追求するという主張を一蹴してこう述べた。「ミッションステートメントを正しく読んだ人なら、WCC が宗教多元主義であるとは言わない

だろう。」同司教は、シリア正教会に所属し、Niranam の大主教であり、WCC 世界宣教と伝道委員会 (CWME) 議長である。

去る 11 月 6 日釜山総会現場で同司教にインタビューした。

—— WCC 大会期間中会議場周辺では、WCC への反対集会が続いた。反対者たちの間では、WCC が宗教多元主義を目指しているとの批判が大きい。どのように考えるか。

WCC 反対者たちとは何度も会った。私は彼らの宗教的自由に関する主張を理解し、尊重する。しかし、WCC が宗教多元主義を目指すという主張に、私は同意しない。反対者たちは WCC が聖書とイエスを否定すると考えているようだ。WCC 規約に見れば明確に示されている。私たちは、聖書とイエス様を基本としていると、WCC 規約には、はっきり書いてある。

——反対者たちは WCC が他の宗教を信じている人や宗教がない人も、救いを受けることができるかと主張している、としている。

大きな誤解だ。イエス・キリストを信仰する教会だけが WCC に所属することができる。信念と教義の違いはあるだろう。しかし、イエス・キリストを信仰するという考えは一つだ。WCC は、ただイエス・キリストを通してのみ救われることができると告白する。私個人もそのように考えており、これまでにもそのように主張してきた。



司教は「左手に聖書を持って右手には、“サタンよ、退け”と叫ぶプラカードを持つ、その行動こそがクリスチャンらしくない。」と語った

©ニュースアンドジョイ イ・ギョヒョク

WCC は、多くの教会の連合である。誰もがそう思うのかは分からない。個人的にイエス・キリストを救い主として告白しなければ救いを得ることができると考えている。WCC に参加するほとんどの人々がそのように考えるだろう。

WCC は他の宗教と交流することは、対話と協力のためだ。宗教が違おうとして会話さえし

なければ、どのように救いの問題を語るができるだろうか。救いはイエス・キリストを通して得る。ただし、我々は他の宗教を信じている人や宗教がない人々を非難しない。

外から WCC 反対運動をする人々は、聖書を左手に置いて、右手で人に向かって「サタンよ、退け」と叫ぶ。果たしてそのような行動が聖書的なのか。そうした人々は、確かに「自分はクリスチャンだ」と主張するが、その行動はクリスチャンではない。

——「救い」という用語をどのような意味で受け入れるか。

私たちは、イエス・キリストが救いである、という救済論を持っている。ただし、他の宗教に救いがあるかどうかについては、何も述べていない。全能の神のなさることには、私たちが知らないことが多い。他の宗教を信じている人や宗教のない人を神が救う、などと、私たちは、確信することはおろか、知ることすら、できない。クリスチャンができることは「イエスが救いだ」と宣言することである。他のことは、神に任せなければならない。

他の宗教と協力することは、環境、貧困、暴力などから、神の創造の世界を守るために必要だ。宗教が違う人とも共通の目標をたくさん持つことができる。救いの問題とは無関係に、神の善を他の人々と連帯していくことが、救われた人の行動だと思う。

聖書をただ文字面でのみ受け入れる人が多い。聖書が語る内容を理解し、心に受け入れなければならない。私たちは、明らかに聖書の神を私たちの神と考え、イエス・キリストを救い主として考えている。WCC が宗教多元主義であると主張することの背景には、長い間醸成された誤解が作用している。いつかそのような誤解をなくすことをしたいと思う。

—— WCC は伝道を禁止するのでは？

(笑) 私が住んでいるインドにキリスト教を信じる人は3%にしかならない。私はヒンズー教を信じる人々や宗教のない人にイエス・キリストを信じるように説教して伝道をしている。WCC に集まった多くの人々が福音を宣べ伝え、伝道している。

WCC の最大の目的は、多くの教会の一致と団結である。教会が集まって一つの目的のために同じ言葉を出そうとするものである。もちろん、理念と教理が異なるため、完全な一致は達成し難い。しかし、愛、平和、正義は、誰でも同意できる神の御心である。その共通の目標の中で一致を達成することができる。これは私の考えではなく、聖書に記載されている内容である。私たちは、聖書に基づいている。

むしろ、クリスチャンが神を信じていない誰かを「蛇」「サタン」と罵ることは、真の福音の姿ではない。信じない人のために祈り、語りかけるのがクリスチャンの姿勢だ。語りかけ、対話をして、この問題を解決しなければならない。なぜ対話もせずに、自分の信仰だけを強要するのだろうか。

——イエス・キリストを信じれば天国に行き、信じなければ地獄に行くと思いますか。

それはわからない。明らかなのは、我々は、イエス・キリストを信じており、そのような

信仰を分け与えなければならない、ということだ。神は愛する子供たちを非難したり地獄に送るために来たのではなく、救うためにこの世に来られたのだ。



—— 反対者たちは西洋の教会の崩壊の原因を WCC と自由主義神学に見ている。

WCC への反対者が「WCC は教会を殺す」という表現をしているのを見て、率直に、衝撃を受けた。反対者たちは、自分たちが思っている福音だけが正しいと思っている。片手に聖書を持って、人を悪魔と叫ぶ。もし私がヒンドゥー教徒であったなら、そのようなキリスト教は信じないだろう。

どうか、一緒に話し合いながら誤解を解いてほしい。WCC は、教会を殺すことではない。むしろ迫害を受けたり、世俗化されている世界の教会のために、共に闘争して正義を叫ぶ。

——最後に語りたいことは？

新しいミッションステートメントは、30 年ぶりに出てきた。20 世紀とは異なり、今では西洋文明の世俗化が急激に進んでおり、アジアやアフリカ、南米などのキリスト教の中心地として浮上している。インターネットと SNS (ソーシャルネットワーク) の発達で生活環境も変わった。このような時代状況と変化をミッションステートメントに反映しようとした。福音宣言と聖霊の活動内容も、ステートメントの文面に浮き彫りにした。WCC に反対する人々には、新しいミッションステートメントを正しく読むよう、要求したい。そうすれば、多くの誤解が解けるだろう。

李ギュヒョク leegyuhyuk@newsjoy.or.kr